

## 6.2 ダム湖及びその周辺の環境の把握

### 6.2.1 環境の概況

真名川ダム湖周辺環境情報図（広域図）を図6.2-1に示す。

真名川ダムの位置する真名川は、九頭竜川の支川で大野盆地を流れ、下荒井で九頭竜川に合流する。流域面積は356.9km<sup>2</sup>で、真名川ダムの上流には笹生川ダムと雲川ダムが存在する。流域面積の80.4%は山地で、ブナ - ミズナラ林等の豊かな山林に広くおおわれている。また、真名川ダムを含む流域の一部は奥越高原県立自然公園に属し、ダム湖周辺は鳥獣保護区に指定されている。気候は日本海型気候の多雨多雪地帯に属し、平均年間降水量は、平野部で2,000～2,400mm、山間部で2,600～3,000mmとなっており、降雪量は平野部で2～3m、山沿いで6m以上に達する。

出典：6-52 「九頭竜ダム・真名川ダムパンフレット」

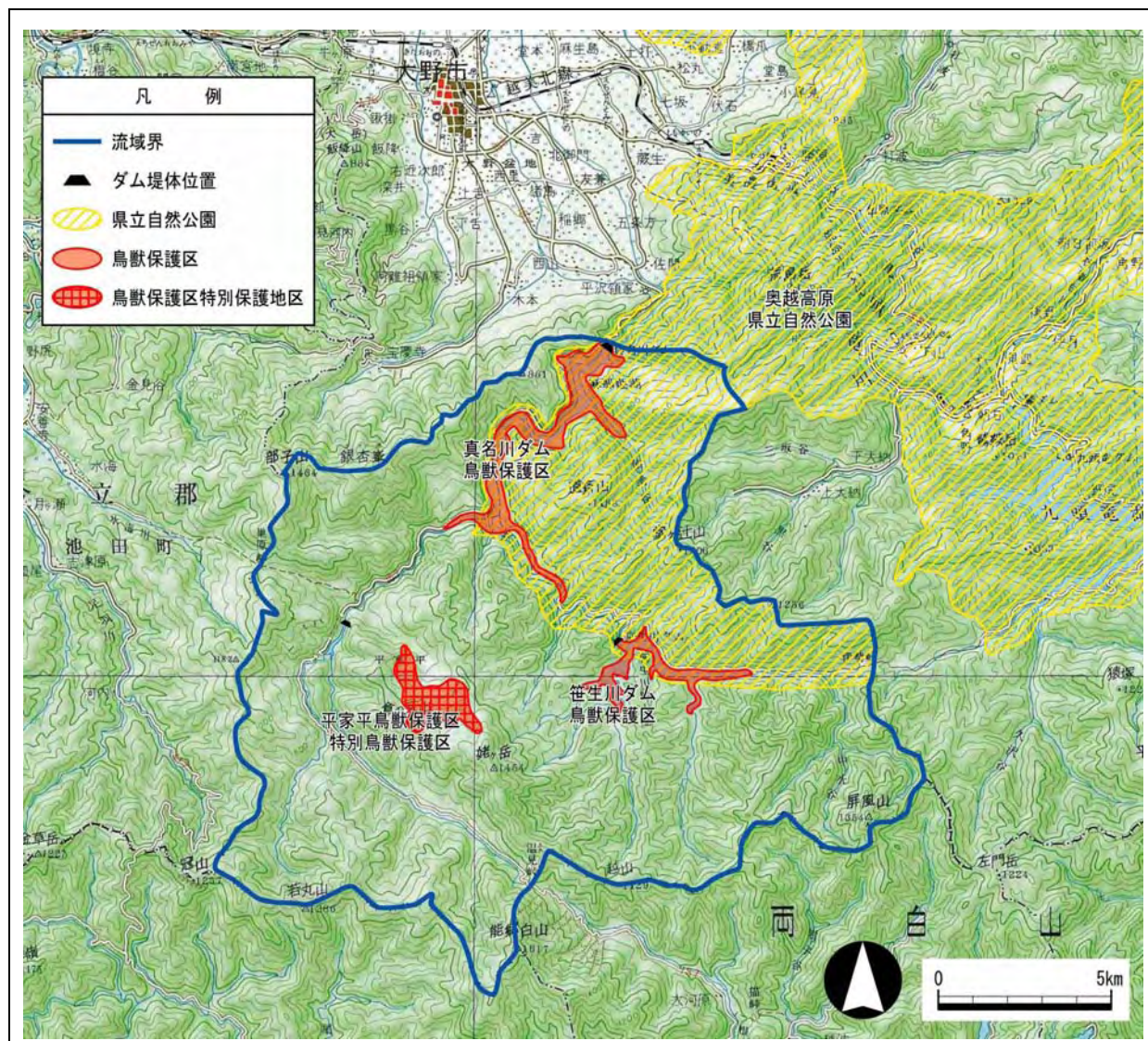


図 6.2-1 真名川ダム周辺環境情報図（広域図）

## 6.2.2 ダム湖周辺環境の概況

### (1)自然環境の概況

真名川ダムの周辺には、落葉広葉樹林（クリ・コナラ群落等）が広く分布し、谷沢には自然植生のトチノキ - サワグルミ群落が点在する。

これまで実施した河川水辺の国勢調査で、134科 1060種の植物、14科 24種の哺乳類、35科 97種の鳥類、6科 10種の両生類、5科 10種の爬虫類、252科 2649種の陸上昆虫類等を確認している。ツキノワグマ、カモシカ等の大型哺乳類や、クマタカ、アオバト、オオアカゲラ等の山地森林性の鳥類、ナガレヒキガエル、カジカガエル等の渓流性の種などの出現が特徴である。

水域では、9科 21種の魚類、4科 4種のエビ・カニ・貝類、106科 309種の底生動物、7綱 116種の植物プランクトン、10綱 56種の動物プランクトンを確認している。ダム湖内では、コイやギンブナ等の止水環境を好む魚類や、陸封化されたアマゴなどを確認している。流入河川や下流河川ではアブラハヤ、カジカ等の渓流環境を好む種を多く確認しているほか、持籠谷川や仙翁谷川等の流入支川ではイワナ、ノギカワゲラ等の主に水温の低い源流域に生息する種も確認している。

### (2)重要種<sup>注)</sup>

天然記念物、環境省レッドデータブック掲載種、福井県レッドデータブック掲載種等の重要種は、魚類はハス、アジメドジョウ、カジカ等の8種、底生動物はミネトワダカワゲラ、ミヤマノギカワゲラ、オオナガレトビケラの3種、鳥類はオシドリ、クマタカ、ハヤブサ、ヤマセミ等の21種、植物はノダイオウ、ツメレンゲ、エビネ等の42種、両生類・爬虫類・哺乳類はヒダサンショウウオ、イモリ、イシガメ、カモシカ等の9種、陸上昆虫類等はムカシトンボ、オオムラサキ、フクイアナバチ等の15種を確認している。

カジカ、クマタカ、ヤマセミ、イモリ、カモシカ等の重要種は経年的に確認しており、ハヤブサは平成13年に営巣場所が発見されて以降、4年連続で繁殖に成功している。ダム湖及びその周辺が多くの重要種の生息・生育環境として利用されている。

注) 河川水辺の国勢調査のマニュアル改訂により、「特定種」の名称が「重要種」に変更された。

### (3)外来種

特定外来種による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リストの掲載種、要注外来生物リストの掲載種、外来種ハンドブックの掲載種等の外来種は、魚類はニジマス、鳥類はドバト、哺乳類はハツカネズミとハクビシン、植物はイタチハギ、ハリエンジュ、アレチウリ、オオハンゴンソウ等の78種、陸上昆虫類等はオオタバコガ、ブタクサハムシ、セイヨウミツバチ等の5種を確認している。

これらのうち、植物のアレチウリとオオハンゴンソウが特定外来生物に、魚類のニジマス、植物のイタチハギ、ハリエンジュ等21種が要注外来生物に該当する。なお、オオハンゴンソウは平成7年度の調査より継続確認しており、アレチウリは平成15年度の調査で初めて確認した。

(4)その他トピックス

a)魚類の放流実績

真名川では大野市漁業協同組合に対し「内水面にかかる共同漁業権」が免許されており、真名川における漁場の区域は図 6.2-2 に示すとおり大野市堀兼真名川堀兼えん堤下流端より九頭竜川合流点までである。なお、漁場の区域には真名川ダム湖内及び真名川ダムの上流域は含まれない。

大野市漁業協同組合の漁場区域における魚類の放流量及び漁獲量は表 6.2-1 に示すとおりである。昭和 61 年～平成 18 年の間に、同組合によってコイ、フナ、アユ、イワナ、ニジマス、ヤマメ、アマゴが放流されている。また、平成 15 年～平成 18 年の間に、コイ、フナ、アユ、イワナ、ヤマメ、アマゴが漁獲されている。

なお、真名川ダム上流では、釣人によるアユの私的な放流が行われている。

表 6.2-1(1) 漁業協同組合による魚類の放流量及び漁獲量

区間	対象魚類名	稚魚・成魚放流量 kg/年															放流場所	備考	
		S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12			H13
ダム下流	アユ	2350	2870	2350	2805	3200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	真名川大橋～佐開橋	
		-	-	-	-	-	-	1503	1563	1659	1704	1750	1500	3290	-	-	-	真名川大橋～佐開橋	琵琶湖産
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1750	1500	1895	1710	1940	土布子橋～佐開橋	琵琶湖産 福井県産
	イワナ	0.3 <sup>*</sup>	-	-	-	7 <sup>*</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	-	-	佐開橋～太郎丸	
	ニジマス	-	-	-	-	-	-	-	0.2 <sup>*</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	佐開橋～太郎丸	
	ヤマメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	15	24	八千代橋～佐開橋
アマゴ	-	-	-	-	-	-	9 <sup>*</sup>	11 <sup>*</sup>	-	91	168	300	-	-	-	-	佐開橋～太郎丸		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	91	168	200	203	223	120	100	110	佐開橋～八千代橋	岐阜県産
ダム下流 (真名川支流)	コイ	0.075 <sup>*</sup>	10 <sup>*</sup>	10 <sup>*</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	150	-	-	-	-	赤根川清滝神社付近	
	フナ	-	10 <sup>*</sup>	10 <sup>*</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明	
	アユ	-	-	-	-	-	-	-	150	-	71	-	-	-	-	-	-	清滝川下郷橋付近	琵琶湖産
アマゴ	-	-	-	-	-	-	-	1 <sup>*</sup>	4 <sup>*</sup>	-	15	-	-	-	-	-	清滝川木ノ本上流		
流入河川・ダム下流	アマゴ	46 <sup>*</sup>	51 <sup>*</sup>	49 <sup>*</sup>	60 <sup>*</sup>	60 <sup>*</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	雲川ダム～中島付近 佐開橋～国道158号線付近		

注 1) \*: 千尾/年で表されている数値

注 2) 流入河川・ダム下流のアマゴは、2箇所放流されたことを示す(放流量は2箇所の合計のみが記載されていた)。

出典：6-1 「平成 2 年度水生生物(魚貝類)調査作業報告書」

6-12 「平成 8 年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-33 「平成 9 年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-34 「平成 10 年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-19 「平成 13 年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

表 6.2-1(2) 漁業協同組合による魚類の放流量及び漁獲量

対象 魚類名	稚魚・成魚放流量			
	kg/年			
	H15	H16	H17	H18
フナ	-	-	20	20
アユ	2500	3080	3550	3020
イワナ	200	150	200	130
ヤマメ	50	140	200	110
アマゴ	150	156	200	180

出典：6-49「大野市漁業協同組合聞き取り結果」

表 6.2-1(3) 漁業協同組合による魚類の放流量及び漁獲量

対象 魚類名	漁獲量			
	kg/年			
	H15	H16	H17	H18
コイ	50	-	-	-
フナ	50	40	50	50
アユ	10500	7000	7500	21000
イワナ	720	1000	1100	3000
ヤマメ	2000	5000	5500	6000
アマゴ	480	500	1200	5000

出典：6-49「大野市漁業協同組合聞き取り結果」



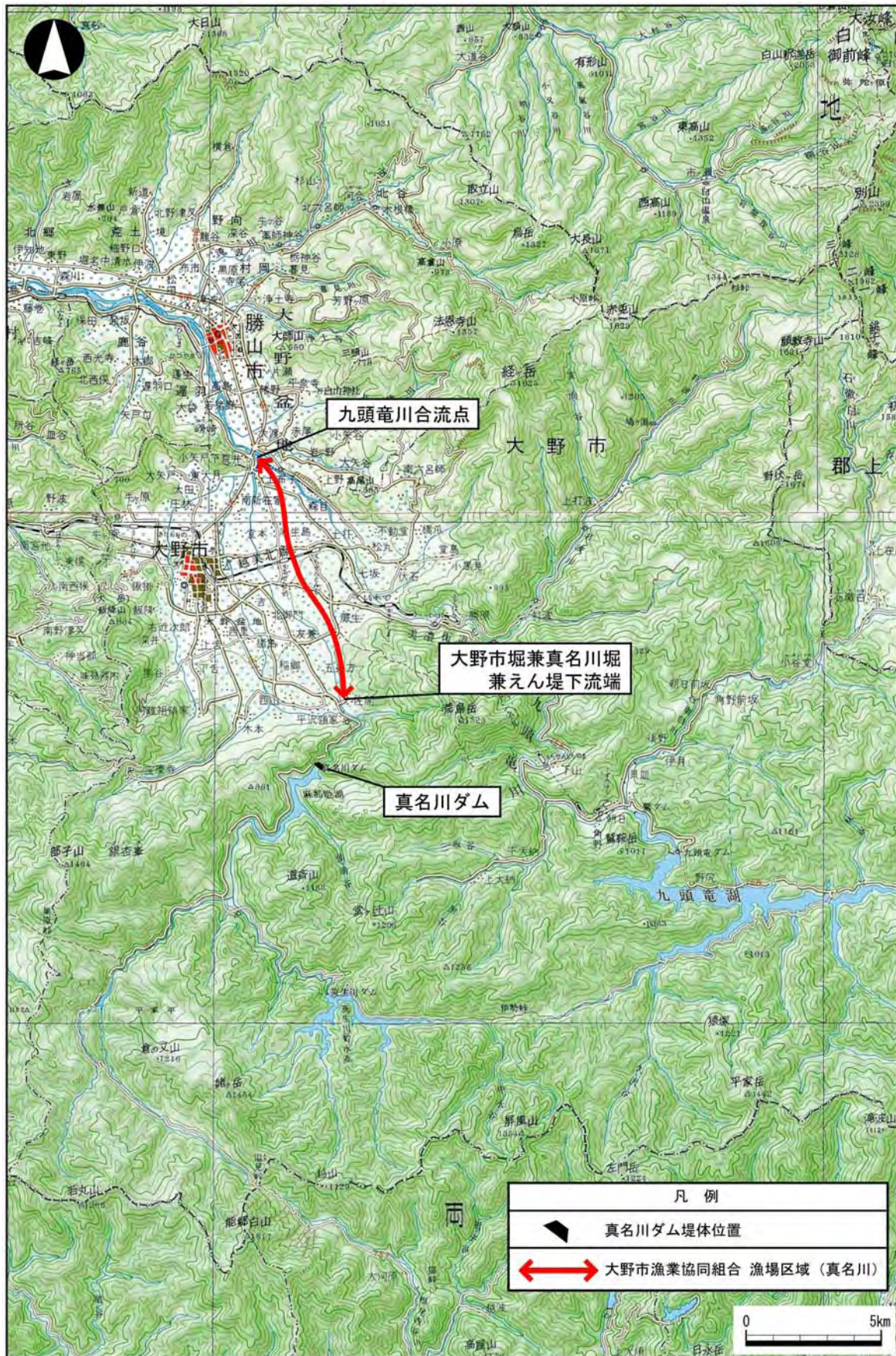


図 6.2-2 真名川における大野市漁業協同組合の漁場区域図



(5)環境情報図

真名川ダム周辺環境情報図（全体図）を図6.2-3に示す。

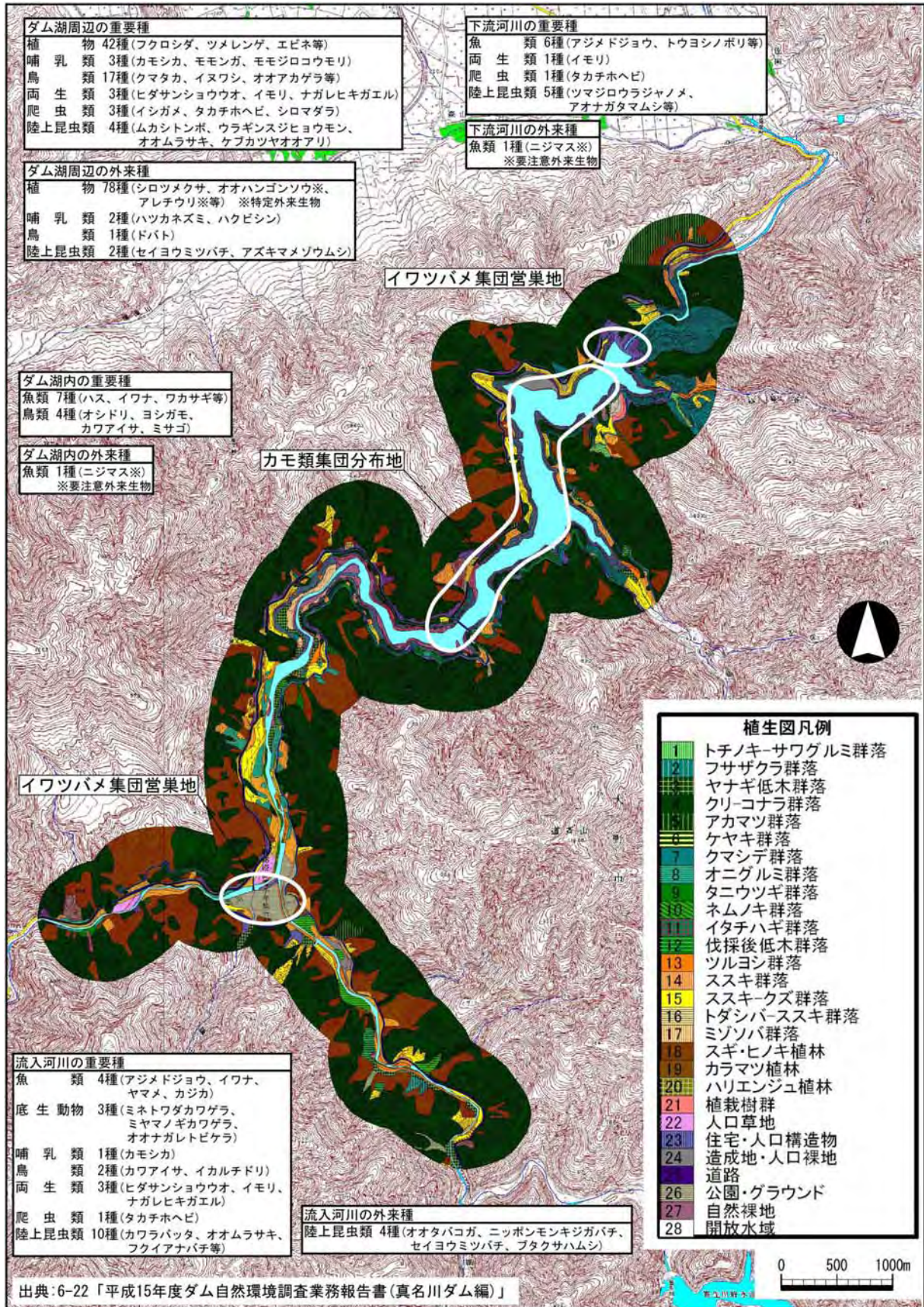


図6.2-3 ダム湖周辺環境情報図（全体図）



### 6.2.3 ダム湖およびその周辺の生物の特徴

#### (1) 魚類

##### 1) 確認種の概要

これまでに実施した4回の国勢調査で、表6.2-1(1)に示す5目9科21種の魚類を確認した。

確認種の中ではコイ科に属する種が多く、コイ、ギンブナ、オイカワ、タカハヤ、ウグイなど10種を確認し、次いでサケ科に属する種をイワナ、ヤマメなど4種確認した。また、オイカワ、アブラハヤ、ウグイ、カマツカ、アユ、イワナ、アマゴ(サツキマスは平成13年度に確認)、カジカの8種は、全ての調査年度で確認した。

表6.2-2(1) 魚類の確認状況

No	確認種			調査年度				重要種	外来種
	目名	科名	種名	平成2-3年 (1990-1)	平成5年 (1993)	平成8年 (1996)	平成13年 (2001)		
1	コイ目	コイ科	コイ			○			
2			ギンブナ		○	○	○		
-			フナ類	○					
3			ハス	○		○			●
4			オイカワ	○	○	○	○		
5			アブラハヤ	○	○	○	○		
6			タカハヤ			○	○		
7			ウグイ	○	○	○	○		
8			ビワヒガイ					○	
9			カマツカ	○	○	○	○		
10			ニゴイ		○	○	○		
11		ドジョウ科	アジメドジョウ			○	○	●	
12	ナズ目	ギギ科	ギギ		○	○	○		
13		アカザ科	アカザ			○	○	●	
14	サケ目	キュウリウオ科	ワカサギ	○	○	○		●	
15		アユ科	アユ	○	○	○	○		
16		サケ科	イワナ	○	○	○	○	●	
17			ニジマス		○	○	○		●
18			ヤマメ	○		○	○	●	
19			アマゴ (サツキマス)	○	○	○	○ (○)		
-				○	○	○			
20	カサゴ目	カジカ科	カジカ	○	○	○	○	●	
21	スズキ目	ハゼ科	トウヨシノボリ		○	○	○	●	
確認種数				12	14	20	18	8	1
				21					

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成19年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会, 平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典: 6-1 「平成2年度水生生物(魚貝類)調査作業報告書」

6-2 「平成3年度水生生物調査作業報告書」

6-7 「平成5年度ダム自然環境調査報告書(魚介類)」

6-12 「平成8年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-19 「平成13年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-57 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-4 汽水・淡水魚類」

6-63 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」

6-101 「要注意外来生物リスト」

6-102 「外来種ハンドブック」

## 2)重要種

重要種は、ハス、アジメドジョウ、カジカ等、表 6.2-2(2)に示す 7 科 8 種を確認した。

表 6.2-2(2) 魚類（重要種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度				選定基準			
			平成2-3年 (1990-1)	平成5年 (1993)	平成8年 (1996)	平成13年 (2001)	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	福井県 RDB
1	コイ科	ハス	○		○				VU	危険Ⅰ
2	ドジョウ科	アジメドジョウ			○	○			VU	危険Ⅱ
3	アカザ科	アカザ			○	○			VU	危険Ⅱ
4	キュウリウオ科	ワカサギ	○	○	○					危険Ⅱ
5	サケ科	イワナ	○	○	○	○				危険Ⅱ
6		ヤマメ	○		○	○				危険Ⅱ
7	カジカ科	カジカ	○		○	○			NT	準危険
8	ハゼ科	トウヨシノボリ		○	○	○				準危険
合計	7科	8種	5種	4種	8種	6種	-	-	4種	8種

注) 1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成 19 年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成 14 年の動物編の掲載種)

出典: 6-1 「平成 2 年度水生生物(魚貝類)調査作業報告書」

6-2 「平成 3 年度水生生物調査作業報告書」

6-7 「平成 5 年度ダム自然環境調査報告書(魚介類)」

6-12 「平成 8 年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-19 「平成 13 年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-57 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-4 汽水・淡水魚類」

6-63 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

## 3)外来種

外来種は、平成 5 年度以降に実施した 3 回の調査で、要注意外来生物のニジマスを確認している。

表 6.2-2(3) 魚類（外来種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度				外来生物法		外来種 ハンドブック
			平成2-3年 (1990-1)	平成5年 (1993)	平成8年 (1996)	平成13年 (2001)	特定	要注意	
1	サケ科	ニジマス		○	○	○		●	●
合計	1科	1種	-	1種	1種	1種	-	1種	1種

注) 1. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会, 平成 14 年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典: 6-1 「平成 2 年度水生生物(魚貝類)調査作業報告書」

6-2 「平成 3 年度水生生物調査作業報告書」

6-7 「平成 5 年度ダム自然環境調査報告書(魚介類)」

6-12 「平成 8 年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-19 「平成 13 年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」

6-101 「要注意外来生物リスト」

6-102 「外来種ハンドブック」



## (2)エビ・カニ・貝類

### 1)確認種の概要

これまでに実施した4回の国勢調査で、表6.2-3に示す2科4種のエビ類・カニ類・貝類を確認した。

確認種の大部分は、流入河川または下流河川で確認しており、ダム湖内では平成3年度にスジエビを確認したのみであった。

表6.2-3 エビ・カニ・貝類の確認状況

No	確認種			調査年度				重要種	外来種
	目名	科名	種名	平成2-3年 (1990-1)	平成5年 (1993)	平成8年 (1996)	平成13年 (2001)		
1	エビ目	カワニナ科	カワニナ			○	○		
2	エビ目	テナガエビ科	スジエビ	○		○	○		
3		ヌマエビ科	ヌマエビ			○			
4		サワガニ科	サワガニ			○	○		
確認種数				1	0	4	3	0	0
				4					

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成18年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会,平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典:6-1 「平成2年度水生生物(魚貝類)調査作業報告書」

6-2 「平成3年度水生生物調査作業報告書」

6-7 「平成5年度ダム自然環境調査報告書(魚介類)」

6-12 「平成8年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-19 「平成13年度ダム自然環境調査業務報告書(魚介類)」

6-59 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-6 陸・淡水産貝類」

6-60 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-7 クモ形類・甲殻類等」

6-63 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」

6-101 「要注意外来生物リスト」

6-102 「外来種ハンドブック」

### 2)重要種

確認種の中に重要種は含まれていない。

### 3)外来種

確認種の中に外来種は含まれていない。

(3)底生動物

1)確認種概要

これまでに実施した4回の国勢調査で、表6.2-4(1)に示す106科309種の底生動物を確認した。なお、確認状況の詳細は資料編に示す。

確認種の中では、カゲロウ目、トビケラ目、ハエ目など昆虫類に属する種が多く、274種を確認した。ダム湖内(最深部)ではイトミミズ類が優占していたが、流入河川や下流河川では溪流性のフタバコカゲロウ、シロハラコカゲロウ、マルツツトビケラ、シマトビケラ属、アシマダラブユ属等が優占していた。

表6.2-4(1) 底生動物の確認状況(確認種数)

門名	綱名	目名	調査年度				重要種	外来種				
			平成6年 (1994年)	平成9年 (1997年)	平成14年 (2002年)	平成18年 (2006年)						
			科数:種数	科数:種数	科数:種数	科数:種数						
海綿動物門	普通海綿綱	サラカイメン目	-	-	-	1	-	-				
刺胞動物門	ヒドロ虫綱	無鞘目(花クラゲ目)	-	-	-	1	-	-				
扁形動物門	渦虫綱	順列目	1	1	1	2	-	-				
紐形動物門	有針綱	ハリヒモムシ目	-	-	-	1	-	-				
類線形動物門	ハリガネムシ綱	ハリガネムシ目	-	-	-	2	-	-				
軟体動物門	腹足綱	盤足目	-	-	1	1	1	-	-			
		基眼目	-	-	-	-	1	-	-			
	二枚貝綱	マルスダレガイ目	-	-	-	-	1	-	-			
		オヨギミミズ目	-	-	-	-	1	-	-			
環形動物門	ミミズ綱	イトミミズ目	1	1	1	1	2	10	-	-		
		ツリミミズ目	-	-	-	-	2	2	-	-		
	ヒル綱	無吻蛭目	-	1	-	-	1	1	-	-		
節足動物門	クモ綱	ダニ目	-	-	-	-	6	6	-	-		
	軟甲綱	ヨコエビ目	1	1	1	1	1	1	-	-		
		ワラジムシ目	1	1	1	1	1	1	-	-		
		エビ目	3	3	3	3	2	2	-	-		
	昆虫綱	カゲロウ目	9	25	8	30	7	30	9	45	-	-
		トンボ目	5	7	2	5	3	4	5	7	-	-
		カワゲラ目	6	17	6	18	8	22	6	25	2	-
		カメムシ目	1	1	-	-	-	-	1	5	-	-
		ヘビトンボ目	1	2	1	2	1	2	1	3	-	-
		アミメカゲロウ目	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
		トビケラ目	12	20	14	32	13	33	22	51	1	-
ハエ目		4	12	6	12	7	27	14	67	-	-	
コウチュウ目	2	6	3	7	3	6	8	21	-	-		
苔虫動物門	被口綱	掩喉目	-	-	-	-	1	1	-	-		
合計			47	98	46	113	49	132	94	260	3	0

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成18年、19年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会,平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典:6-9「平成6年度ダム自然環境調査報告書(底生動物)」

- 6-13「平成9年度ダム自然環境調査業務報告書(底生動物)」
- 6-20「平成14年度ダム自然環境調査業務報告書(底生動物)」
- 6-27「平成18年度ダム自然環境調査業務報告書(底生動物)」
- 6-58「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-5 昆虫類」
- 6-59「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-6 陸・淡水産貝類」
- 6-60「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-7 クモ形類・甲殻類等」
- 6-62「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」
- 6-63「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」
- 6-64「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」
- 6-100「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」
- 6-101「要注意外来生物リスト」
- 6-102「外来種ハンドブック」



## 2)重要種

重要種は、表 6.2-4(2)に示すとおり、ミヤマノギカワゲラ、ミネトワダカワゲラ、オオナガレトビケラの3種を確認した。

表 6.2-4(2) 底生動物(重要種)の確認状況

No.	科名	種名	調査年度				選定基準				
			平成6年 (1994)	平成9年 (1997)	平成14年 (2002)	平成18年 (2006)	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	福井県 RDB	
1	トワダカワゲラ科	ミネトワダカワゲラ			○						要目
2	ヒロムネカワゲラ科	ミヤマノギカワゲラ	○	○	○	○					要目
3	ナガレトビケラ科	オオナガレトビケラ	○	○					NT		
合計	3科	3種	2種	2種	2種	1種	-	-	1種		2種

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成18年、19年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

出典:6-9「平成6年度ダム自然環境調査報告書(底生動物)」

- 6-13「平成9年度ダム自然環境調査業務報告書(底生動物)」
- 6-20「平成14年度ダム自然環境調査業務報告書(底生動物)」
- 6-27「平成18年度ダム自然環境調査業務報告書(底生動物)」
- 6-58「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-5 昆虫類」
- 6-59「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-6 陸・淡水産貝類」
- 6-60「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-7 クモ形類・甲殻類等」
- 6-62「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」
- 6-63「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」
- 6-64「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

## 3)外来種

確認種の中に外来種は含まれていない。

#### (4) 植物プランクトン

##### 1) 確認種概要

これまでに実施した4回の国勢調査で、表6.2-5に示す7綱116種の植物プランクトンを確認した。なお、確認状況の詳細は資料編に示す。

また、優占種は調査年度や調査時期で異なるが、大部分は *Asterionella formosa*、*Cyclotella stelligera*、*Stephanodiscus* spp.等の珪藻類であった。

表 6.2-5 植物プランクトンの確認状況

門名	綱名	調査年度				重要種	外来種
		平成6年 (1994年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成18年 (2006年)		
		科数:種数	科数:種数	科数:種数	科数:種数		
藍色動物	藍藻綱	1:1	1:1	1:3	1:1	—	—
クリプト植物	クリプト藻綱	—:—	—:—	1:1	1:1	—	—
渦鞭毛植物	渦鞭毛藻綱	2:2	2:2	2:2	1:2	—	—
不等毛植物	黄金色藻綱	1:1	1:2	1:1	2:3	—	—
	珪藻綱	9:57	10:46	9:54	6:21	—	—
ミドリムシ植物	ミドリムシ藻綱	1:2	1:1	1:2	1:1	—	—
緑色植物	緑藻綱	3:4	8:10	10:12	7:9	—	—
合計		17:67	23:62	25:75	19:38	0	0
		116					

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成18年、19年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編、平成16年の植物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会、平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典:6-10「平成6年度ダム自然環境調査報告書(動植物プランクトン)」

6-18「平成12年度ダム自然環境調査報告書(動植物プランクトン)」

6-26「平成17年度ダム自然環境調査業務報告書(動植物プランクトン)」

6-28「平成18年度ダム自然環境調査業務報告書(動植物プランクトン)」

##### 2) 重要種

確認種の中に重要種は含まれていない。

##### 3) 外来種

確認種の中に外来種は含まれていない。



(5)動物プランクトン

1)確認種概要

これまでに実施した4回の国勢調査で、表6.2.6に示す10綱56種の動物プランクトンを確認した。なお、確認状況の詳細は資料編に示す。

また、いずれの調査年度も、ゾウミジンコ科の *Bosmina longirostris* をはじめとする甲殻類、テマリワムシ科の *Conochilus unicornis*、ツボワムシ科の *Keratella quadrata* 等のワムシ類等が優占種(個体数の多い種)となっていた。

表 6.2-6 動物プランクトンの確認状況

門名	綱名	調査年度								重要種	外来種
		平成6年 (1994年)		平成12年 (2000年)		平成17年 (2005年)		平成18年 (2006年)			
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数		
肉質鞭毛虫門	葉状根足虫綱	3	3	2	2	2	2	2	2	—	—
	糸状根足虫綱	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—
	真正太陽虫綱	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—
繊毛虫門	キネトフラグミノフォラ綱	1	2	1	1	1	2	—	—	—	—
	少膜綱	1	1	—	—	1	2	1	1	—	—
	多膜綱	4	4	2	2	2	2	2	2	—	—
輪形動物門	単生殖巣綱	7	10	9	16	10	14	5	8	—	—
	ヒルガタワムシ綱	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—
線形動物門	—	—	1	—	1	—	1	—	—	—	—
節足動物門	甲殻綱	5	9	5	9	4	6	5	6	—	—
	昆虫綱	—	—	2	2	2	2	—	—	—	—
合計		21	31	23	35	22	32	15	19	0	0

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成18年、19年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編、平成16年の植物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会、平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典:6-10「平成6年度ダム自然環境調査報告書(動植物プランクトン)」

6-18「平成12年度ダム自然環境調査報告書(動植物プランクトン)」

6-26「平成17年度ダム自然環境調査業務報告書(動植物プランクトン)」

6-28「平成18年度ダム自然環境調査業務報告書(動植物プランクトン)」

2)重要種

確認種の中に重要種は含まれていない。

3)外来種

確認種の中に外来種は含まれていない。

(6) 植物

1) 確認種概要

これまでに実施した 3 回の国勢調査で、表 6.2-7(1)に示す 134 科 1060 種の植物種を確認した。なお、確認状況の詳細資料編に示す。

また、ダム湖周辺の植生の大部分は、クリ・コナラ群落をはじめとする代償植生の木本群落で構成されているが、ツルヨシ群落やススキ群落等の草本群落も分布している。

表 6.2-7(1) 植物の確認状況

分類群				調査年度						重要種	外来種
				平成7年(1995)		平成10年(1998)		平成15年(2003)			
				科数	種数	科数	種数	科数	種数		
シダ植物				16	76	16	79	17	85	5	—
種子植物	裸子植物			5	5	5	5	5	7	—	—
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	65	381	68	399	64	386	13	27
			合弁花類	27	192	28	205	29	191	15	31
		単子葉植物		13	185	13	196	13	175	9	20
合計				126	839	130	884	128	844	42	78
				1060							

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・「自然公園法(白山国立公園)」の指定植物
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成19年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成16年の植物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会,平成14年)の国外外来種
- ・「日本帰化植物写真図鑑」(清水矩宏ほか,平成13年)の掲載種
- ・「日本の帰化植物写真図鑑」(清水建美ほか,平成15年)の掲載種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

- 出典: 6-11 「平成7年度ダム自然環境調査業務報告書(植物)」  
 6-15 「平成10年度ダム自然環境調査業務報告書(植物)」  
 6-22 「平成15年度ダム自然環境調査業務報告書(真名川ダム編)」  
 6-61 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-8 植物Ⅰ(維管束植物)」  
 6-63 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」  
 6-65 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(植物編)」  
 6-81 「日本帰化植物写真図鑑」  
 6-82 「日本の帰化植物写真図鑑」  
 6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」  
 6-101 「要注意外来生物リスト」  
 6-102 「外来種ハンドブック」



2)重要種

重要種は、表 6.2-7(2)に示す 26 科 42 種を確認した。また、42 種のうち、自然公園法による指定植物は 13 種、「植物 及び植物 のレッドリスト見直しについて」(環境省,平成 19 年)の掲載種は 6 種、「福井県の絶滅のおそれのある野生動物-福井県レッドデータブック(植物編)-」(福井県,平成 16 年)の掲載種は 31 種であった。

表 6.2-7(2) 植物(重要種)の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			選定基準					
			平成7年 (1995)	平成10年 (1998)	平成15年 (2003)	天然 記念物	種の 保存法	自然 公園法	環境省 RL	福井県 RDB	
1	ハナヤスリ科	ナガホノツノハナワラビ			○						要注目
2	チャセンシダ科	イトトラノオ	○	○							危険Ⅱ
3	メシダ科	イワヤシダ		○							危険Ⅱ
4		フクロシダ			○						危険Ⅰ
5	ウラボシ科	ナガオノキシノブ			○						要注目
6	ニレ科	コバノチヨウセンエノキ		○							危険Ⅰ
7		ハルニレ			○						準危険
8	タテ科	ハルトラノオ	○	○	○			●			
9		ノダイオウ	○							NT	危険Ⅱ
10	ナデシコ科	オオヤマフスマ			○						準危険
11	ウマノスズクサ科	フタバアオイ			○						要注目
12		ウスバサイシン	○	○	○						要注目
13	ボタン科	ヤマシャクヤク		○						NT	危険Ⅱ
14	ベンケイソウ科	ツメレンゲ			○					NT	危険Ⅰ
15	バラ科	オオダイコンソウ	○	○							危険Ⅱ
16	スマリ科	エイザンスミレ	○	○	○						準危険
17		アカネスミレ	○	○							要注目
18	セリ科	ハナビゼリ	○	○							要注目
19	ツツジ科	イワナシ	○	○	○			●			
20		サツキ		○	○						要注目
21	モクセイ科	シオジ	○	○	○						危険Ⅱ
22	シソ科	アキギリ	○	○	○			●			
23	ゴマノハグサ科	サツキヒナノウスツボ									危険Ⅱ
24	イワタバコ科	イワタバコ	○	○	○			●			
25	スイカズラ科	オトコヨウメ			○						要注目
26	キキョウ科	ヤマホタルブクロ	○					●			
27		シデンヤジ	○	○	○						要注目
28	キク科	チョウジギク			○			●			
29		カガノアザミ	○	○	○			●			危険Ⅱ
30		ハクサンアザミ		○	○			●			
31		ノニガナ	○	○							危険Ⅱ
32		オタカラコウ	○	○				●			
33		ヒメヒゴタイ	○							VU	危険Ⅰ
34	ユリ科	カタクリ	○	○	○			●			
35		ショウジョウバカマ	○	○	○			●			
36		マルバサンキライ			○						危険Ⅰ
37		エンレイソウ	○	○	○			●			
38	アヤメ科	カキツバタ		○						NT	危険Ⅱ
39	サトイモ科	アシウテンナンショウ			○						要注目
40	カヤツリグサ科	タタラカンガレイ		○	○						危険Ⅰ
41	ラン科	エビネ		○	○					NT	危険Ⅱ
42		セッコク			○			●			危険Ⅰ
合計	26科	42種	21種	26種	29種	-	-	13種	6種		31種

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・「自然公園法(白山国立公園)」の指定植物
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成 19 年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成 16 年の植物編の掲載種)

- 出典: 6-11 「平成 7 年度ダム自然環境調査業務報告書(植物)」  
 6-15 「平成 10 年度ダム自然環境調査業務報告書(植物)」  
 6-22 「平成 15 年度ダム自然環境調査業務報告書(真名川ダム編)」  
 6-61 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-8 植物Ⅰ(維管束植物)」  
 6-63 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」  
 6-65 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(植物編)」

3) 外来種

外来種は、表 6.2-7(3)に示すシロツメクサ、ブタクサ、オオオナモミ等の 22 科 78 種を確認した。このうち、アレチウリとオオハンゴンソウは特定外来生物、イタチハギ、ハリエンジュ、セイタカアワダチソウ等の 21 種は要注意外来生物に該当する。

表 6.2-7(3) 植物（外来種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			外来生物法		外来種 ハンドブック
			平成7年 (1995)	平成10年 (1998)	平成15年 (2003)	特定	要注意	
1	タデ科	ヒメスイバ			○			●
2		ナガバギシギシ	○	○				●
3		エゾノギシギシ	○	○	○		●	●
4	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ			○			●
5	ナデシコ科	オランダミナグサ	○	○	○			●
6		ムシトリナデシコ	○	○	○			●
7		コハコベ	○	○	○			●
8	ヒユ科	アオビユ(ホナガイヌビユ)	○	○				●
9	オトギリソウ科	ココマバオトギリ	○	○				●
10	アブラナ科	シロイヌナズナ	○	○	○			●
11		ミチタネツケバナ	○	○	○			●
12		マメゲンバイナズナ	○	○				●
13	ベンケイソウ科	ツルマンネングサ	○	○				●
14	バラ科	オランダイチョ	○	○				●
15		ユキヤナギ		○	○			
16	マメ科	イタチハギ	○	○	○		●	●
17		エシシダ	○	○	○			●
18		アレチヌスビトハギ	○	○	○			●
19		ハリエンジュ	○	○	○		●	●
20		ムラサキツメクサ	○	○	○			●
21		シロツメクサ	○	○	○			●
22	トウダイグサ科	オオニシキソウ			○			●
23		コニシキソウ	○	○				●
24	ニガキ科	シシジユ			○			●
25	ウリ科	アレチウリ			○	●		●
26	アカバナ科	メマツヨイグサ	○	○	○		●	●
27		オオマツヨイグサ			○			●
28	ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ	○	○			●	●
29		マルバルコウ	○	○	○			●
30	シソ科	ヒメオドリコソウ	○	○	○			●
31	ナス科	ホオズキ	○	○				
32		ワルナスビ			○		●	●
33	ゴマノハグサ科	タチイヌノフグリ	○	○	○			●
34		オオイヌノフグリ	○	○	○			●
35	オオバコ科	ヘラオオバコ			○		●	●
36	キク科	ブタクサ	○	○	○		●	●
37		ユウゼンギク	○	○				●
38		アメリカセンダングサ	○	○	○		●	●
39		フランスギク	○	○				●
40		アレチノギク		○				●
41		オオアレチノギク	○	○	○		●	●
42		ベニバナボロギク	○	○	○			●
43		タカサブロウ	○	○	○			
44		ダンドボロギク	○	○	○			●
45		ヒメムカシヨモギ	○	○	○		●	●



表 6.2-7(3) 植物（外来種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			外来生物法		外来種 ハンドブック
			平成7年 (1995)	平成10年 (1998)	平成15年 (2003)	特定	要注意	
46	(キク科)	ハルジオン	○	○	○		●	●
47		チチヨグサモドキ		○				●
48		ブタナ	○	○	○		●	●
49		オオハンゴンソウ	○	○	○	●		●
50		ノボロギク			○			●
51		セイタカアワダチソウ			○		●	●
52		オニノゲン	○	○	○			●
53		ヒメジョオン	○	○	○		●	●
54		ヘラバヒメジョオン		○				●
55		アカミタンポポ			○		●	●
56		セイヨウタンポポ	○	○	○		●	●
57		イガオナモミ			○			●
58		オオオナモミ	○	○	○		●	●
59	ヒガンバナ科	ラッパズイセン	○	○			●	
60	アヤメ科	キシヨウブ	○	○	○		●	●
61		ヒメヒオウギズイセン	○	○				●
62	イネ科	コヌカグサ	○	○	○			●
63		クロコヌカグサ	○	○				●
64		ノハラスズメノテッポウ	○	○				●
65		ハルガヤ			○			●
66		イヌムギ	○	○				●
67		カモガヤ	○	○	○		●	●
68		オオニワホコリ	○	○				●
69		コスズメガヤ	○	○	○			●
70		オニウシノケグサ	○	○	○		●	●
71		ハガワリトボシガラ		○				●
72		ヒロハノウシノケグサ	○	○	○			●
73		オオクサキビ	○	○	○			●
74		ツルスズメノカタビラ	○	○				●
75		コイチゴツナギ			○			●
76		ナガハグサ	○	○	○			●
77		オオスズメノカタビラ	○	○	○			●
78	ナギナタガヤ	○	○	○			●	
合計	22科	78種	59種	64種	56種	2種	21種	75種

注)1. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会, 平成 14 年)の国外外来種
- ・「日本帰化植物写真図鑑」(清水矩宏ほか, 平成 13 年)の掲載種
- ・「日本の帰化植物写真図鑑」(清水建美ほか, 平成 15 年)の掲載種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典: 6-11 「平成 7 年度ダム自然環境調査業務報告書(植物)」  
 6-15 「平成 10 年度ダム自然環境調査業務報告書(植物)」  
 6-22 「平成 15 年度ダム自然環境調査業務報告書(真名川ダム編)」  
 6-81 「日本帰化植物写真図鑑」  
 6-82 「日本の帰化植物写真図鑑」  
 6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」  
 6-101 「要注意外来生物リスト」  
 6-102 「外来種ハンドブック」

## (7)鳥類

## 1)確認種概要

これまでに実施した3回の国勢調査で、表6.2-8(1)に示す14目35科97種の鳥類を確認し、この中には、水域環境を利用するカモ類や溪流性のヤマセミ、カワガラス、大型猛禽類のオジロワシ、イヌワシ、樹林性のツツドリ、オオアカゲラ、シジュウカラ等が含まれている。

また、季節移動型をみると、確認種の約半数にあたる46種が留鳥となっており、夏鳥は22種、冬鳥は26種、旅鳥は3種となっている。

表6.2-8(1) 鳥類の確認状況

No.	確認種			調査年度			重要種	外来種	季節移動型		
	目名	科名	種名	平成4-5年 (1992-3)	平成9年 (1997)	平成14年 (2002)					
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	○					冬鳥		
2	ペリカン目	ウ科	カワウ			○			留鳥		
3	コウノトリ目	サギ科	アオサギ	○	○	○			留鳥		
4	カモ目	カモ科	オシドリ		○	○	●		留鳥		
5			マガモ	○	○	○			冬鳥		
6			カルガモ	○	○	○			留鳥		
7			コガモ	○	○	○			冬鳥		
8			トモエガモ	○	○		●		冬鳥		
9			ヨシガモ		○		●		冬鳥		
10			ヒドリガモ	○	○				冬鳥		
11			オナガガモ	○	○				冬鳥		
12			ハシビロガモ				○		冬鳥		
13			ホシハジロ	○	○	○			冬鳥		
14			キンクロハジロ	○	○				冬鳥		
15			カワアイサ	○	○	○	●		冬鳥		
16			タカ目	タカ科	ミスゴ		○		●		夏鳥、留鳥
17					トビ	○	○	○			留鳥
18					オジロワシ		○			●	
19	オオタカ	○				○	●		冬鳥、留鳥		
20	ツミ	○			○		●		冬鳥		
21	ハイタカ				○		●		留鳥		
22	サシバ	○					●		夏鳥		
23	クマタカ	○			○	○	●		留鳥		
24	イヌワシ				○		●		留鳥		
25		ハヤブサ科			ハヤブサ			○	●	留鳥	
26	キジ目	キジ科	キジ	○				夏鳥			
27			ヤマドリ	○		○		留鳥			
28	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ		○	○	●	留鳥			
29		シギ科	アオシギ		○			冬鳥			
30	ハト目	ハト科	ドハト		○			●	留鳥		
31			キジバト	○	○	○			留鳥		
32			アオバト			○			留鳥		
33	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ	○	○				夏鳥		
34			ツツドリ	○	○	○			夏鳥		
35			ホトギス	○	○	○			夏鳥		
36	フクロウ目	フクロウ科	コノハズク		○		●	夏鳥			
37	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ		○	○	●	夏鳥			
38	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	○	○	○	●		留鳥		
39			アカショウビン			○	●		夏鳥		
40			カワセミ	○	○				留鳥		
41	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	○	○	○			留鳥		
42			アカゲラ	○	○				留鳥		
43			オオアカゲラ	○			●		留鳥		
44			コゲラ	○	○	○			留鳥		
-			キツツキ科の一種		○	○			留鳥		
45	スズメ目	ツバメ科	ツバメ	○		○			夏鳥		
46			イワツバメ	○	○	○			夏鳥		
47		セキレイ科	キセキレイ	○	○	○			留鳥		
48			ハクセキレイ	○	○				留鳥		
49			セグロセキレイ	○	○	○			留鳥		
50			ピンズイ		○				夏鳥		
51		サンショウクイ科	サンショウクイ	○	○	○	●		夏鳥		
52		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○			留鳥		

表 6.2-8(1) 鳥類の確認状況

No.	確認種			調査年度			重要種	外来種	季節 移動型		
	目名	科名	種名	平成4-5年 (1992-3)	平成9年 (1997)	平成14年 (2002)					
53	スズメ目	モズ科	モズ	○	○	○			留鳥		
54		カワガラス科	カワガラス	○	○	○			留鳥		
55		ミソサザイ科	ミソサザイ	○	○	○			留鳥		
56		イワヒバリ科	イワヒバリ		○		●		留鳥		
57		ツグミ科	コマドリ	○						留鳥	
58			コルリ	○						夏鳥	
59			ルリビタキ	○	○	○				冬鳥	
60			ジョウビタキ	○	○	○				冬鳥	
61			ノビタキ				○			旅鳥	
62			イソヒヨドリ	○						冬鳥	
63			トラツグミ	○	○	○				夏鳥	
64			クロツグミ	○	○	○				夏鳥	
65			シロハラ	○						旅鳥	
66			ツグミ	○	○					冬鳥	
67			ウグイス科	ヤブサメ	○	○	○				夏鳥
68				ウグイス	○	○	○				留鳥
69				オオヨシキリ				○			夏鳥
70				メボソムシクイ			○				旅鳥
71			センダイムシクイ	○					夏鳥		
72		ヒタキ科	キビタキ	○		○				夏鳥	
73			オオルリ	○	○	○				夏鳥	
74		エナガ科	エナガ	○	○	○			留鳥		
75		シジュウカラ科	コガラ	○	○	○				留鳥	
76			ヒガラ	○	○	○				留鳥	
77			ヤマガラ	○	○	○				留鳥	
78			シジュウカラ	○	○	○				留鳥	
79		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	○	○	○			留鳥		
80		メジロ科	メジロ	○	○	○			夏鳥		
81		ホオジロ科	ホオジロ	○	○	○				留鳥	
82			カシラダカ	○	○					冬鳥	
83			ミヤマホオジロ	○	○					冬鳥	
84			アオジ	○		○				冬鳥	
85		アトリ科	アトリ		○	○				冬鳥	
86			カワラヒワ	○	○	○				留鳥	
87			マヒワ	○	○					冬鳥	
88			ハギマシコ	○		○				冬鳥	
89			ベニマシコ	○	○	○				冬鳥	
90			ウソ	○		○				留鳥	
91			イカル	○	○	○				留鳥	
92			シメ		○				冬鳥		
93		ハタオリドリ科	スズメ	○					留鳥		
94		ムクドリ科	ムクドリ	○					夏鳥		
95		カラス科	カケス	○	○	○				留鳥	
96			ハシボソガラス	○						留鳥	
97			ハシブトガラス	○	○	○				留鳥	
種類数合計				74	71	60	21	1	-		
				97							

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成18年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会,平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典: 6-3 「平成4年度ダム自然環境調査報告書」

6-4 「平成5年度ダム自然環境調査報告書(鳥類)」

6-14 「平成9年度ダム自然環境調査業務報告書(鳥類)」

6-21 「平成14年度ダム自然環境調査業務報告書(鳥類)」

6-55 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-2 鳥類」

6-62 「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」

6-101 「要注意外来生物リスト」

6-102 「外来種ハンドブック」



## 2)重要種

重要種は、表 6.2-8(2)に示すとおり、オシドリ、クマタカ、イカルチドリ等、10科 21種を確認した。

表 6.2-8(2) 鳥類（重要種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			選定基準			
			平成4-5年 (1992-3)	平成9年 (1997)	平成14年 (2002)	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	福井県 RDB
1	カモ科	オシドリ		○	○			DD	準危惧
2		トモエガモ	○	○				VU	危惧Ⅱ
3		ヨシガモ		○					準危惧
4		カワアイサ	○	○	○				要注目
5	タカ科	ミサゴ		○				NT	危惧Ⅰ
6		オジロワシ		○		国天	●	EN	危惧Ⅰ
7		オオタカ	○		○		●	NT	危惧Ⅰ
8		ツミ	○	○					準危惧
9		ハイタカ		○				NT	危惧Ⅱ
10		サンバ	○					VU	準危惧
11		クマタカ	○	○	○		●	EN	危惧Ⅰ
12		イヌワシ		○		国天	●	EN	危惧Ⅰ
13	ハヤブサ科	ハヤブサ			○		●	VU	危惧Ⅱ
14	チドリ科	イカルチドリ		○	○				危惧Ⅱ
15	フクロウ科	ヨノハズク		○					準危惧
16	ヨタカ科	ヨタカ		○	○			VU	危惧Ⅱ
17	カワセミ科	ヤマセミ	○	○	○				準危惧
18		アカショウビン			○				準危惧
19	キツツキ科	オオアカゲラ	○						準危惧
20	サンショウクイ科	サンショウクイ	○	○	○			VU	危惧Ⅱ
21	イワヒバリ科	イワヒバリ		○					危惧Ⅱ
合計	10科	21種	9種	16種	10種	2種	5種	12種	21種

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成18年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

出典: 6-3 「平成4年度ダム自然環境調査報告書」

- 6-4 「平成5年度ダム自然環境調査報告書(鳥類)」
- 6-14 「平成9年度ダム自然環境調査業務報告書(鳥類)」
- 6-21 「平成14年度ダム自然環境調査業務報告書(鳥類)」
- 6-55 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-2 鳥類」
- 6-62 「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」
- 6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

## 3)外来種

外来種は、表 6.2-8(3)に示すとおり、平成9年度の調査時に外来種ハンドブックに記されているドバト1種を確認した。

表 6.2-8(3) 鳥類（外来種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			外来生物法		外来種 ハンドブック
			平成4-5年 (1992-3)	平成9年 (1997)	平成14年 (2002)	特定	要注意	
1	ハト科	ドバト		○				●
合計	1科	1種	-	1種	-	-	-	1種

注)1. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会, 平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典: 6-3 「平成4年度ダム自然環境調査報告書」

- 6-4 「平成5年度ダム自然環境調査報告書(鳥類)」
- 6-14 「平成9年度ダム自然環境調査業務報告書(鳥類)」
- 6-21 「平成14年度ダム自然環境調査業務報告書(鳥類)」
- 6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」
- 6-101 「要注意外来生物リスト」
- 6-102 「外来種ハンドブック」

(8)両生類

1)確認種概要

これまでに実施した3回の国勢調査で、表6.2-9(1)に示す2目6科10種の両生類を確認し、この中には、沢などの流水環境で繁殖するヒダサンショウウオをはじめ、草地や森林が隣接する溪流環境に生息するナガレヒキガエル、カジカガエル等が含まれていた。

表 6.2-9(1) 両生類の確認状況

No	確認種			調査年度			重要種	外来種
	目名	科名	種名	平成5年 (1993)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)		
1	サンショウウオ目	サンショウウオ科	ヒダサンショウウオ		○	○	●	
2		イモリ科	イモリ	○	○	○	●	
3	カエル目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル		○			
4			ナガレヒキガエル	○		○	●	
-			ヒキガエル属の一種				○	
5		アマガエル科	アマガエル	○	○			
6		アカガエル科	タゴガエル		○	○		
7			ヤマアカガエル	○	○	○		
8		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル		○	○		
9			モリアオガエル	○	○	○		
10	カジカガエル		○	○	○			
確認種数				6	9	8	3	0
				10				

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成18年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会,平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典:6-5 「平成5年度ダム自然環境調査報告書(両生類・爬虫類)」

6-17 「平成12年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-25 「平成17年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-56 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-3 両生類・爬虫類」

6-62 「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」

6-101 「要注意外来生物リスト」

6-102 「外来種ハンドブック」

## 2)重要種

重要種は、表 6.2-9(2)に示すとおり、ヒダサンショウウオ、イモリ、ナガレヒキガエルの 3 科 3 種を確認した。

表 6.2-9(2) 両生類（重要種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			選定基準			
			平成5年 (1993)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	福井県 RDB
1	サンショウウオ科	ヒダサンショウウオ		○	○			NT	
2	イモリ科	イモリ	○	○	○			NT	
3	ヒキガエル科	ナガレヒキガエル	○		○				準危惧
合計	3科	3種	2種	2種	3種	-	-	2種	1種

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成 18 年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成 14 年の動物編の掲載種)

出典: 6-5 「平成 5 年度ダム自然環境調査報告書(両生類・爬虫類)」  
 6-17 「平成 12 年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」  
 6-25 「平成 17 年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」  
 6-56 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-3 両生類・爬虫類」  
 6-62 「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」  
 6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

## 3)外来種

確認種の中に外来種は含まれていない。

(9)爬虫類

1)確認種概要

これまでに実施した3回の国勢調査で、表6.2-10(1)に示す2目5科10種の爬虫類を確認した。

確認種のうち、林縁から草地環境に生息するトカゲやカナヘビ、水辺環境を好むシマヘビやヤマカガシ等は、全ての調査年度で確認した。

表6.2-10(1) 爬虫類の確認状況

No	確認種			調査年度			重要種	外来種
	目名	科名	種名	平成5年 (1993)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)		
1	カメ目	イシガメ科	イシガメ		○	○	●	
2	トカゲ目	トカゲ科	トカゲ	○	○	○		
3		カナヘビ科	カナヘビ	○	○	○		
4		ヘビ科	タカチホヘビ			○	●	
5			シマヘビ	○	○	○		
6			ジムグリ	○	○			
7			アオダイショウ	○	○	○		
8			シロマダラ			○	○	●
9		ヤマカガシ	○	○	○			
10		クサリヘビ科	マムシ	○	○	○		
種類数合計				7	9	9	3	0
				10				

注1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成18年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

注2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会,平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典:6-5 「平成5年度ダム自然環境調査報告書(両生類・爬虫類)」

6-17 「平成12年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-25 「平成17年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-56 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-3 両生類・爬虫類」

6-62 「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」

6-101 「要注意外来生物リスト」

6-102 「外来種ハンドブック」



## 2)重要種

重要種は、表 6.2-10(2)に示すとおり、イシガメ、タカチホヘビ、シロマダラの 2 科 3 種を確認した。

表 6.2-10(2) 爬虫類（重要種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			選定基準			
			平成5年 (1993)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	福井県 RDB
1	イシガメ科	イシガメ		○	○			DD	
2	ヘビ科	タカチホヘビ			○				要注目
3		シロマダラ		○	○				要注目
合計	2科	3種	-	2種	3種	-	-	1種	2種

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成 18 年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成 14 年の動物編の掲載種)

出典: 6-5 「平成 5 年度ダム自然環境調査報告書(両生類・爬虫類)」

6-17 「平成 12 年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-25 「平成 17 年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-56 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-3 両生類・爬虫類」

6-62 「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

## 3)外来種

確認種の中に外来種は含まれていない。

(10) 哺乳類

1) 確認種概要

これまでに実施した3回の国勢調査で、表6.2-11(1)に示す7目14科24種の哺乳類を確認し

この中には、ニホンリスやスミスネズミ等の小型哺乳類、タヌキやアナグマ等の中型哺乳類に加えて、ツキノワグマやカモシカ等の大型哺乳類も含まれていた。

表6.2-11(1) 哺乳類の確認状況

No	確認種			調査年度			重要種	外来種	
	目名	科名	種名	平成6年 (1994)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)			
1	モグラ目(食虫目)	モグラ科	ヒミズ	○	○	○			
2			アズマモグラ			○			
-			モグラ属の一種			○			
3	コウモリ目(翼手目)	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ		○	○			
4			モモジロコウモリ			○	●		
-		ヒナコウモリ科の一種			○				
-		コウモリ目(翼手目)の一種			○				
5	サル目(霊長目)	オナガザル科	ニホンザル	○	○	○			
6	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	○	○	○			
7	ネズミ目(齧歯目)	リス科	ニホンリス		○	○			
8			モモンガ			○		●	
9			ムササビ			○	○		
-			リス科の一種			○			
10			スミスネズミ	○					
11		アカネズミ	○	○	○				
12		ヒメネズミ	○	○					
13		カヤネズミ			○				
14		ハツカネズミ	○					●	
-		ネズミ科の一種	○	○					
15	ネコ目(食肉目)	クマ科	ツキノワグマ			○			
16		イヌ科	タヌキ	○	○	○			
17			キツネ	○	○	○			
18		イタチ科	テン	○	○	○			
19			イタチ	○					
-			イタチ属の一種				○		
20			アナグマ			○	○		
21	ジャコウネコ科	ハクビシン	○	○	○		●		
22	ウシ目(偶蹄目)	イノシシ科	イノシシ	○	○	○			
23		シカ科	ホンドジカ		○	○			
24		ウシ科	カモシカ	○	○	○	●		
種類数合計				14	18	19	3	2	
				24					

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成19年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会, 平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典: 6-8 「平成6年度ダム自然環境調査報告書(哺乳類)」

- 6-17 「平成12年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」
- 6-25 「平成17年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」
- 6-54 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-1 哺乳類」
- 6-63 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」
- 6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」
- 6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」
- 6-101 「要注意外来生物リスト」
- 6-102 「外来種ハンドブック」

## 2)重要種

重要種は、表 6.2-11(2)に示すとおり、モモジロコウモリ、モモンガ、カモシカの 3 科 3 種を確認した。

表 6.2-11(2) 哺乳類（重要種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			選定基準				
			平成6年 (1994)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	福井県 RDB	
1	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ			○					要注目
2	リス科	モモンガ		○						準危惧
3	ウシ科	カモシカ	○	○	○	特別				
合計	3科	3種	1種	2種	2種	1種	-	-		2種

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成 19 年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成 14 年の動物編の掲載種)

出典:6-8 「平成 6 年度ダム自然環境調査報告書(哺乳類)」

6-17 「平成 12 年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-25 「平成 17 年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-54 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-1 哺乳類」

6-63 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

## 3)外来種

外来種は、表 6.2-11(3)に示すとおり、ハツカネズミ、ハクビシンの 2 科 2 種を確認した。

表 6.2-11(3) 哺乳類（外来種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			外来生物法		外来種 ハンドブック
			平成6年 (1994)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	特定	要注意	
1	ネズミ科	ハツカネズミ	○					●
2	ジャコウネコ科	ハクビシン	○	○	○			●
合計	2科	2種	2種	1種	1種	-	-	2種

注)1. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会, 平成 14 年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典:6-8 「平成 6 年度ダム自然環境調査報告書(哺乳類)」

6-17 「平成 12 年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-25 「平成 17 年度ダム自然環境調査業務報告書(両生類・爬虫類・哺乳類)」

6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」

6-101 「要注意外来生物リスト」

6-102 「外来種ハンドブック」

(11)陸上昆虫類等

1)確認種概要

これまでに実施した3回の国勢調査で、表6.2-12(1)に示す16目252科2649種の陸上昆虫類等を確認した。

また、確認種は、カワラバッタやアイヌハンミョウ等の河原環境を利用する種、チビゲンゴロウ等のゲンゴロウ類をはじめとする止水環境を利用する種、樹林環境や草地環境等に依存する種で構成されていた。

表6.2-12(1) 陸上昆虫類等の確認状況

目名	調査年度						重要種	外来種
	平成4~5年 (1992~3年)		平成11年 (1999年)		平成16年 (2004年)			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数		
クモ	15	63	16	87	13	54	—	—
カゲロウ	—	—	—	—	3	4	—	—
トンボ	6	16	5	17	6	14	1	—
カマキリ	1	2	1	2	2	3	—	—
ハサミムシ	2	2	1	2	2	2	—	—
カワゲラ	1	2	1	1	2	7	—	—
バッタ	7	44	8	41	8	40	2	—
ナナフシ	1	1	1	2	1	3	—	—
カメムシ	29	105	31	130	35	161	1	—
アミメカゲロウ	6	11	7	15	8	21	—	—
シリアゲムシ	2	4	2	4	3	7	—	—
トビケラ	4	4	4	5	8	12	—	—
チョウ	31	516	44	781	42	775	4	1
ハエ	6	28	10	41	22	103	1	—
コウチュウ	41	339	44	403	52	448	2	2
ハチ	16	77	18	119	19	150	4	2
合計	168	1214	193	1650	226	1804	15	5
	2649							

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成19年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成14年の動物編の掲載種)

注)2. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会,平成14年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注外来生物」

出典:6-3 「平成4年度ダム自然環境調査報告書」

6-6 「平成5年度ダム自然環境調査報告書(昆虫類)」

6-16 「平成11年度ダム自然環境調査業務報告書(昆虫類)」

6-24 「平成16年度ダム自然環境調査業務報告書(陸上昆虫類等)」

6-58 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-5 昆虫類」

6-63 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」

6-101 「要注外来生物リスト」

6-102 「外来種ハンドブック」



## 2)重要種

重要種は、表 6.2-12(2)に示すとおり、ムカシトンボ、オオムラサキ、フクイアナバチ等の 13 科 15 種を確認した。

表 6.2-12(2) 陸上昆虫類等（重要種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			選定基準			
			平成4-5年 (1992-3)	平成11年 (1999)	平成16年 (2004)	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	福井県 RDB
1	ムカシトンボ科	ムカシトンボ	○						要注目
2	コオロギ科	カワラスズ	○						要注目
3	バッタ科	カワラバッタ	○						準危惧
4	ツチカメムシ科	ヨコヅナツチカメムシ		○					要注目
5	セセリチョウ科	スジグロチャバネセセリ	○					NT	準危惧
6	タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン		○				NT	
7		オオムラサキ	○		○			NT	準危惧
8	ジャノメチョウ科	ツマジロウラジャノメ			○				危惧Ⅱ
9	ハナアブ科	スズキナガハナアブ	○						要注目
10	オサムシ科	アオヘリアオゴミムシ	○					CR+EN	
11	タマムシ科	アオナガタマムシ			○				要注目
12	アリ科	ケブカツヤオオアリ	○	○	○				危惧Ⅱ
13		エゾアカヤマアリ	○						危惧Ⅱ
14	ドロバチ科	ハグロフタオビドロバチ			○				危惧Ⅰ
15	アナバチ科	フクイアナバチ		○				NT	準危惧
合計	13科	15種	9種	4種	5種	-	-	5種	13種

注)1. 重要種の選定基準は以下のとおりである。

- ・国、県、市町村指定の天然記念物(文化財保護法)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
- ・レッドデータブック(環境省編)の掲載種(平成 19 年に公表した見直しリストの掲載種)
- ・福井県レッドデータブックの掲載種(平成 14 年の動物編の掲載種)

出典: 6-3 「平成 4 年度ダム自然環境調査報告書」

6-6 「平成 5 年度ダム自然環境調査報告書(昆虫類)」

6-16 「平成 11 年度ダム自然環境調査業務報告書(昆虫類)」

6-24 「平成 16 年度ダム自然環境調査業務報告書(陸上昆虫類等)」

6-58 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-5 昆虫類」

6-63 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」

6-64 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(動物編)」

## 3)外来種

外来種は、表 6.2-12(3)に示すとおり、オオタバコガ、ブタクサハムシ、セイヨウミツバチ等の 4 科 5 種を確認した。

表 6.2-12(3) 陸上昆虫類等（外来種）の確認状況

No.	科名	種名	調査年度			外来生物法		外来種 ハンドブック
			平成4-5年 (1992-3)	平成11年 (1997)	平成16年 (2004)	特定	要注意	
1	ヤガ科	オオタバコガ	○		○			●
2	ハムシ科	アズキマメゾウムシ			○			●
3		ブタクサハムシ			○			●
4	アナバチ科	ニッポンモンキジガバチ	○					●
5	ミツバチ科	セイヨウミツバチ	○	○				●
合計	4科	5種	3種	1種	3種	-	-	5種

注)1. 外来種の選定基準は以下のとおりである。

- ・「外来種ハンドブック」(日本生態学会, 平成 14 年)の国外外来種
- ・「特定外来生物」及び「要注意外来生物」

出典: 6-3 「平成 4 年度ダム自然環境調査報告書」

6-6 「平成 5 年度ダム自然環境調査報告書(昆虫類)」

6-16 「平成 11 年度ダム自然環境調査業務報告書(昆虫類)」

6-24 「平成 16 年度ダム自然環境調査業務報告書(陸上昆虫類等)」

6-100 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物リスト」

6-101 「要注意外来生物リスト」

6-102 「外来種ハンドブック」